

2004. 11. 25 作成
2007. 11. 09 改訂
2011. 11. 17 改訂

都高情研 研究紀要執筆および原稿取り扱い要項

執筆要領

1. 記載内容

- (1) 表題
- (2) 副題(必要があれば)
- (3) 執筆者の所属(学校名など)・氏名
- (4) URLやメールアドレス(必要があれば)
- (5) 章立ては、以下の順で番号・記号をつけ、系統立てて配列する。
1. 2. 3. …、(1)(2)(3)…、(a)(b)(c)…、(i)(ii)(iii)…
- (6) 本文
- (7) 図や表、指導案等があるばあいには、それらを本文中に挿入し、必要に応じて通し番号・題目・説明などをつける。(上図・下図などとはしない)
- (8) 脚注(必要があれば)
- (9) 参考文献や参考 Webサイト(必要があれば)

2. 書式

- (1) 用紙サイズはA4版縦方向
- (2) 余白は、左右20mm、上35mm、下25mm
- (3) 文字組は横組み
- (4) 上記記載内容(1)～(4)は1段組、(5)～(6)は2段組、(7)～(8)はどちらでもよい
- (5) 1行文字数は、1段組の部分は42文字、2段組の部分は20文字で、段間は15mm
- (6) 1ページ行数は42行
- (7) 標準フォントは、和文フォントに明朝体、英文フォントにTimesNewRoman体とし、ともに10.5pt(設定できれば、数字フォントには和文フォントを設定)
- (8) 標準以外のフォント設定は以下のとおり
 - (a) 表題は、ゴシック体16pt
 - (b) 副題は、ゴシック体10.5pt(サイズは標準)
 - (c) URLやメールアドレスは、9pt(フォントは標準)
 - (d) 章立ては、ゴシック体10.5pt(サイズは標準)
 - (e) 図や表の番号・題目などは、9pt(フォントは標準)

3. 表記法

- (1) 文体は「…である」調で記述
- (2) 句読点には、「、」と「。」を使用
- (3) 電子ファイルにする関係上、機種依存文字の使用は避ける
- (4) 数字は1桁の場合は全角文字、2桁以上の場合は半角文字
- (5) 引用文は、短い場合は「」や『』を使用、長い場合は字下げを使用
- (6) 脚注は、原稿全体で通し番号を付し、文中の該当する箇所の右肩に上付き文字で示す
例. 本文「・・・特許技術¹⁾を持っており・・・」
脚注「1)この技術は・・・」
- (7) 参考文献は、著者名、著書名、出版社名の順で表記
例. 奥村晴彦「LaTeX2e美文書作成入門改訂第3版」(技術評論社)
- (8) 編集作業の都合上、改行位置の変更、図表の大きさの変更、レイアウトの変更を生ずる場合がある。

原稿の提出

1. 原稿はワープロソフトウェアで作成し、出力は「Word」または「一太郎」の形式で保存する。
2. 提出は編集担当者に、電子メールにワープロデータを添付する形で行う。
3. ワープロデータ内に図がある場合、画像データとして別途添付する。(画像ファイルの形式は JPEG、GIF、PNG のいずれか、画像の長辺を640ピクセル以内とする)

原稿の取り扱い

1. 原稿は本会において査読する
2. 広報部および広報部が依頼した者が査読者となる。
3. 不採録となる場合、広報部から執筆者にその結果を通知する
4. 不採録となる理由
 - (1) 都高情研活動の目的とかけ離れている
 - (2) 本質的な点で誤りがある
 - (3) 内容に信頼できる根拠が示されていない
 - (4) 書き方、議論の進め方などに不明確な点が多く、内容の把握が困難である
 - (5) その他本会が不相当と判断したもの

原稿の著作権について

1. 提出された原稿の著作権は執筆者本人に帰属する
2. 都高情研は執筆者の原稿を将来にわたって二次利用する権利を持つ
3. 上記2の際、都高情研は執筆者の諒解なしに原稿を利用する
4. 執筆者は上記2と3を原稿提出の際、許諾したものとする

以 上